

菊花咲き香る青空のもと (10月10日)

大阪本部 秋之例大祭 盛大に挙行

—コロナウイルスの緊急事態宣言も解除となり例年通りに—



大祭に奉納された国風歌舞「久米舞」。当教会では23年ぶり。拝殿から幣殿に上る珍しい舞形態が目をつけた。

大神様のお恵みによる、心まで澄むような秋晴れのもと、十月十日の佳き日、大阪本部秋之例感謝祭大祭が執行されました。前日は御教祖倭魂雄之命の祥月命日ではありましたが、教祖祭は割愛し、役員、有志の皆様により大祭準備が万端整えられました。秋風に国旗、教会旗が揺れ動く中、西播・養老両教



発行所
大阪本部
大阪府西區北堀江3丁目10番
電話 06(6531)6722
FAX 06(6531)6152
© (非売品)

11月号

自家成立の
根源は和にあり
秩序の根源は
神祖崇敬より

会の御家族、教信徒の皆様、遠方各地、畿内、大阪府下、市内近郊の本部教信徒の皆様、まさに大神様の御心を揺り動かさんと御参拝。神酒、鏡餅、神饌が供えられた御教祖尊像を仰ぎ、御本殿へ。雅楽部の重厚な音色の中、定刻の十時半、齋主・本部長様を始め祭員の参進。
大祭式次第に従い祭典は進み、御帳が上がる、御神殿には豊の御酒御饌に、実りの稲穂が頭を垂れ、海川山野の秋の幸がうづたかく供えられ、紅白の秋菊も麗しく差し飾られました。齋主大祭祝詞では、コロナ禍の一日も早い終息、安心立命な日々が過ごせるよう、又、寶生教の益々の神威高揚、教勢拡充に、教信徒各家の自家成立繁栄を祈願致しました。
続いて「久米舞」奉納。舞人は新宅の奥様、倭子様、藏樂貴子さん、木本裕子さんの四人。腰元に剣を据え、和琴、箏、龍笛、歌方の



総代先導により参進なさる、祭主・祭員の方々。

途中、剣を抜き舞う姿は、コロナウイルスをも振り払い、打ち砕く如くの勇壮な舞姿でありました。玉串奉奠は教父様、齋主に続き、一人ひとりが昇殿。大神様、御教祖様、御祖先様の日々のご守護に感謝申し上げ、真心の玉串を奉奠。齋主・本部長様のご挨拶、御教話を頂き、祭典は滞りなく相納めしました。
次に直会、西播教会教母様のご発声により声高らかに乾杯。大神様と同じ空間で食事を頂き、恒例の福当たり抽選へ。有志の皆様が
お供え下さった賞品を笑顔で頂きました。
最後には、七月にご誕生された少権現職様ご夫妻のご長女・実玖様のお披露目もあり、締め括りは、本部岸田総代のご発声で万歳三唱。教信徒一同、慶びの内にご散会となりました。
例大祭齋行にあたり、総代始め各役員、有志の皆様には、数日來のご奉仕、ご準備を賜り、お陰を以まして盛大に、素晴らしい祭典を齋行させて頂く事が出来ました。衷心より感謝の意を表します。

令和4年度 『月並運勢表』

申込み受付(11/15~12/15)

教信徒の道しるべ。各家の来年度の月並運勢表を、左記の通り受付致します。

一、教会所定封筒に
住所、氏名、職業(具体的に)、来年の数え年を書きし、申込み幣帛料(金壹萬円)を中に入れて、開封のまま教会事務所へお出しください。

※新入会の方、初めて申込みされる方は、詳細等を遠慮なく教会事務所に、お聞きください。

一、申込みは教信徒で維持費納入者に限ります。
一、申込み期日は、十一月十五日より十二月十五日までです。
一、運勢表の授受は、令和四年元旦です。

一、運勢表の授受は、令和四年元旦です。

一、申込みは教信徒で維持費納入者に限ります。
一、申込み期日は、十一月十五日より十二月十五日までです。

一、運勢表の授受は、令和四年元旦です。

一、申込みは教信徒で維持費納入者に限ります。
一、申込み期日は、十一月十五日より十二月十五日までです。

一、運勢表の授受は、令和四年元旦です。

日	行事	時間
十一月一日(月)	西播教会秋之大祭	午後七時
三日(祝)	御本宮月並祭	午前十時半
七日(日)	御本宮遙拝式	午前十一時半
八日(月)	修 行 日	午前十一時、午後七時
九日(火)	教 祖 祭	午後七時
十日(水)	宝生会(富士スタジアムG.C)	午前十一時
十四日(日)	七五三参り	午後七時
十五日(月)	月 並 祭	
二十日(土)	養老教会修行日	
二十三日(祝)	東京地区敬和会	
二十五日(木)	修 行 日	午前十一時、午後七時
二十八日(日)	名古屋地区敬和会	
十二月一日(水)	月 並 祭	午後七時
五日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
八日(水)	修 行 日	午前十一時、午後七時
九日(木)	教 祖 祭	午後七時

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動

の守り神としての神様の存在を、地域の方に、そしてさらに広く世にひろめることが、大神様への恩返しであり、御心に沿うことではないでしょうか。
発信している内容は、主に神道に関する内容で、日本文化に関する内容も、教信徒以外の方にもわかりやすい文章で毎週投稿しております。
神道のもの考え方、又寶生教の神様が堀江の地に鎮座しているということ、現代のネット社会にも即した形で始まった布教活動でございませう。
皆様もご理解、ご協力い

ただ、先日の例大祭で、赤ちゃんの呼吸の神祕についてお話ししました。先程の天候、自然の話にしても、人間を始めすべての「神の御業」であること、古来、我々の祖先から言い伝えられていることなのです。
「生命」ということに関して、今から約二年前に『海獣の子供』というアニメーション映画が公開されました。
原作は漫画で、少しスピリチュアルで霊的な要素もあるファンタジー作品です。タイトル通り海が舞台で、登場人物が海の波打ち

際に立つて「この波打ち際が、あの世とこの世の境だ」と言う表現がありました。海の生き物は、地上では呼吸できません。反対に、地上の生き物は、水中では呼吸できません。
しかし、先日申し上げたように、我々人間は母親のお腹の中、羊水にいたときは、誰もが、まだ呼吸していません。
この世に生まれ、この世の空気に触れ、初めて呼吸をし、魂が宿った瞬間が、神道における人の命の始まりなのです。
「水子」という言葉を聞いたことがあるかと存じます。お腹の中で亡くなった赤ちゃんを水子と呼んだりしますが、神道では水子は存在しません。
何故なら、この世に生まれ出て、この世の空気を吸って呼吸を始めた瞬間が、人の始まりだからです。
日本人として、命に対する神道の考え方をしっかりと理解し、次の世代へも正しく伝えることが大切かと存じます。

祭之大話 ご教話 神秘・奇跡である生命のリレー



大祭ご教話の大阪本部長様

教信徒の皆様、本日は大阪本部秋之例大祭によるご参拝下さいました。西播、養老、各教会のご家族、役員、教信徒の皆様、又東は関東、東海、西は九州、中国各地域より、更に関西近郊、大阪府下、市内各地域の本部教信徒の皆様、道の長手も一筋に、ご参拝誠に御疲れ様で御座居ます。

祭典中、大和歌「久米舞」を皆様と共に奉納させて頂きました。

「久米舞」は、現存する日本最古の「国風の歌舞」と云われており、その起源は神武天皇の東征神話の中で、戦勝を祝って久米氏一族が歌った歌に舞を付けたものと云われております。現在でも宮中では、天皇即位の礼や正月の祭祀などで奉納される大変めでたい曲です。楽人、舞人共によく鍛練を積まれ、立派に奉納下さいました。

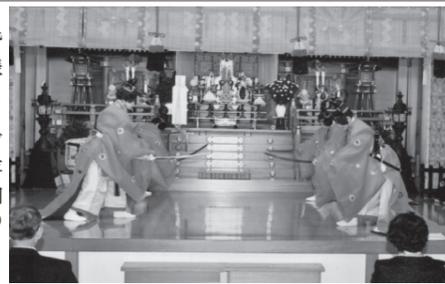
扱、廻る事約一ヶ月程前が頂いている「命」は本場に神秘的であるなど、改めて感じ、学ぶ機会がありましたので、お話に変えさせて頂きます。

これは、この世に生を受ける赤ちゃんの「呼吸」のお話です。

私達ほ乳類は、母親の身体の中で胎児を育てます。

人間の妊娠期間は概ね十月十日。個人差もあり、諸説ありますが、八ヶ月頃には臓器、骨格なども完成していると言われております。最初は一ミリにも満たない受精卵という細胞が、十月十日後には約三グラムの人に、母親の体内で成長を遂げるのです。

それだけでも凄い事だなと、私などは思います。



呼吸はしませんし、排便もありません。しかし排尿は行っているそうです。母親と赤ちゃんは「へその緒」で繋がっていて、胎内での成長に必要な酸素や栄養を送り、又赤ちゃんの成長過程で出る排泄物の排泄など、そのほとんどが、この「へその緒」を通して行われます。

そして、通常出産の場合、母親の狭い産道を通り、空気に触れて、「おぎゃあ」と泣いて、はじめて肺呼吸が始まります。

この瞬間こそが、胎児から一人の人間として魂が備わる瞬間なのです。

その後、へその緒が切れ、胎盤からの血流が途絶えると、はじめて血液が肺にも巡り、新生児としての血流に切り替わるのです。

ではそれまで、羊水の中で赤ちゃんの肺はどうなっているのでしょうか。

赤ちゃんの肺や気管は、母親の胎内では、水を十分に含ませたスポンジの様に水浸しになっています。

この水は羊水ではなくて「肺水」と呼ばれる、赤ちゃんが自ら作り出す体液なのです。

勿論、肺や気管が水浸しでは、呼吸できません。出産が近くなると、赤ちゃんは呼吸の準備を始めます。その知らせが陣痛で、陣痛が始まると母親は特別なホルモンを分泌し、そのホルモンの働きで、赤ちゃんもこの世に出る準備を更に加速させます。

肺に溜まっている「肺水」を赤ちゃん自身が吸収し始めます。しかし、その時はまだ十分に肺の水分が抜けていません。

実は、産道という大変窮屈な場所を通る、物理的な圧迫の力で、肺の水分は体外に押し出され、又その圧迫の力を感じて、赤ちゃん自身も「肺水」の吸収を大急ぎで行います。

そうして、この世に生れ出る準備を行い、初めて肺に空気を一杯に吸い込み「おぎゃあ」と声を上げた時に、神からの分御霊である魂が宿るのです。

実は、その時重要な事がもう一つあります。

水分が抜けて縮こまった肺に空気が送り込まれ一気に膨らむと、表面積が一気にふくれあがり、肺が破れてしまふかも知れません。しかし、心配ご無用。赤ちゃんは肺が破れないように、肺胞の表面に「肺サーファクタント」と呼ばれる潤滑剤を分泌させて、肺の損傷を防いでいるのです。



大祭直会、万歳三唱でお開き。

御本宮 月並祭

毎月第一日曜日 午前十一時半より



献饌台が設けられる東の間には教父様。

つまり赤ちゃんは、僅か数日間、又出産後の僅かな時間で最後の仕上げである呼吸の準備を自ら整えて、この世に生れ出るのでした。

大変神秘的で、すごい事だと思われませんか？

しかし、これまでのお話は医療従事者であればよく知っておられる話ですし、素人の私でも、少し調べれば知る事が出来ます。

つまり、「理屈」は現代の医学で知る事が出来ます。しかし、それらを「作り出す」事は、人間には到底出来ません。

私達人間も含め、生きとし生ける全ての生命は、長い長い生物の進化の中で、神がつくり、自然が育んだものなのです。

その神こそ、私達の信仰する寶生山八津御嶽大神の中心におられる、元無極体天御中主国常立之尊産土之大御神なのです。

先程大祭の祝詞の中で、

「不断に万物の生を養い」という秘言を奏上しましたが、正にそういう事なのです。

この世の全ての営みは、遙か太古の昔から受け継がれている、生命のリレーの賜物です。

ですから、私を含め、今ここに居られる全ての皆様、数え切れない奇跡の積み重ねによって、存在しているのです。

人間としてこの世に生を受けた事こそ、大いに感謝すべきことではないでしょうか。

長い長い生命の繋がり、又先人達の積み上げてきた長い時間に思いを巡らせた時、私達個人の一生はごく僅かな時間です。

だからこそ、与えられた時間を大切に過ごさなければ勿体ないですし、私達の人生における日々の悩みや苦しみは、生命の壮大なリレーの中ではほんの一瞬の、些細な事なのかも知れません。

この世に神が存在するからこそ、私達の生命があるのです。

これからお互いに、大神様、御祖先様の御守護を頂き、健康を守り、自家成立繁栄に励み、心豊かな日々を送れますよう、心より祈念致しております。

今日は、お子様方も大勢ご参拝下さいました。大変尊いお姿です。この奇跡的な生命のリレーを、そして有り難い寶生教の教えを、次の世代へとしっかりと繋いで参りましょう。

最後にになりましたが、本日の大祭にあたり、役員の皆様には数ヶ月に亘り協議を重ねていただき、お蔭様で素晴らしい大祭を斎行する事が出来ました。

又婦人世話人の皆様には

ご教話 教心・魂は神の御分霊

月並祭 (9月15日)

身体は、不調があれば検査をすることが出来ますが、それぞれの心を目で見ることが出来ません。

そして目に見えない心、魂は神様の御分霊です。その魂はたとえ死を迎えても消滅することなく、未来永劫存在し続けるのです。

ですから、神道では祖先祀りが根本であると説いているのです。

私共の寶生教では、御教祖が大神様より直接、教憲「天祖中心祖先之教」をご神示頂かれ、我々にも教え伝えて頂いております。

天祖、即ち大神様を生活の何よりも中心に据える。そして大神様と同様に、各々のご祖先も大切にお祀りする、という教えでございます。

斎主が奏上する祝詞の中に「古き國風の隨に」ということがあります。このことばは、古来伝わる日本のしきたりに従って神事を執り行っている、という意味があります。

つまり、日本人が連綿と伝え続けてこられた姿こそが、神道であり、祖先祀りなのです。

その様に考えてみますと、「天祖中心祖先之教」、何と尊く、有り難い教えであるかとかみしめて頂けるかと存じます。

世間一般では葬式や法事は仏教行事と理解されがちですが、これは決して正しくありません。インドで生まれた本来の仏教には、祖先祀りという考え方は存在しません。その仏教が伝来し、そこへ日本の祖先祀りを取り入れたのが、現在の仏教なのです。

正しくは、全ての基本が神道にあるということです。この神道、祖先祀りの大切さを、次の世代へ繋いで頂けるのも又、ご祖先のお陰なのです。

ご祖先のご守護なくして、日々の生活は困難です。その御霊の存在をしつかりと認識され、感謝し、お仕えすることが、更なる大きなご守護に繋がるものでございます。

ご教話 呼吸を始めた瞬間が人の始まり

月並祭 (10月15日)

当教会では、三ヶ月ほど前から、時代に即した布教活動の一環としてインスタグラムというサービスを使得

って情報発信を始めました。大阪本部が現在の堀江の地に遷座して、丁度七十年。多難な世の中において、教

信徒の皆様への心よりどころとして、常にご守護くださる寶生山八津御嶽大神。同時に、地域を守る堀江